
千代田のお城は花盛り

玉篠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

千代田のお城は花盛り

【Nコード】

N4168Z

【作者名】

玉篠

【あらすじ】

時は江戸時代中期。

日本橋の呉服屋の娘・おけいは、おしまと言つ名前で、大奥の呉服の間に奉公する奥女中。

大奥内での権力争いなど、呉服の間の女中にとってはどこ吹く風。おしまは、今日もせっせと針を動かし、おしゃべりに花を咲かせる。

序章

「頼んでいた？取り《かいどり》は、仕上がっておるか？」

「これは咲嶋様、わざわざのお運び、痛み入ります。」

ご注文の品なれば、これにございます。

今、ここでお当てになりますか？」

「いや・・・いつもそなたたちの仕事には満足しておるし、果報は寝て待てなどと申すではないか。」

後ほど、私の局まで届けてたもれ。」

「お千佳ちゃん、そこ、ヘラつけ間違ってる。」

「え????? どこどこ????? ほんとだ。」

「誰か・・・この帯を、お紗枝の方様のお部屋に届けてくれぬか。」

「ここは、江戸城大奥」

「呉服の間」

御台所様をはじめとする、大奥で暮らす者 全ての、衣装を調える場所が、ここだ。

私の名前は おしま。

もっとも、この名前は、大奥内での呼び名で、本当の名前は おけい と言う。

ここ呉服の間に奉公する十人のお針子の一人。
つまり、こう見えても私は

奥女中

なんですよ。

私は、江戸・日本橋にお店を構える呉服商 『伊勢や』 の、
三女として生まれた。

上には当然の事ながら、姉が二人いる・・・いや、いた。

いた と言うのは、すぐ上の姉は、私が生まれる少し前に、
罹ほって亡くなってしまつと聞いているからだ。

あ、ちなみに兄も一人いる。

しかし、兄は現在、実家にはいない。

商いの修行の為、上方の商人のところへ奉公しているからだ。

先日届いた おとつあんからの手紙によると、兄は今年の春から
手代に昇格したらしかった。

私よりも五つ上の姉は、一昨年の夏、お店の手代の一人を婿にとつ
て所帯を持った。

将来はその義兄がお店を継ぐことになるのだろう。

私も二年か三年以内には おとつあんが見込んだ手代か番頭の
人と所帯を持って、うちのお店を盛り立てていくはずだった。

しかし・・・去年の夏ごろ。

うちのお店のお得意様である、お旗本の内藤様が、
私を大奥で奉公させる気はないか

と、仰つて下さった。

何でも内藤様の妹君に、大奥のご祐筆ゆうひつ をなされていらつしやる初は
音様つねと仰る方がおいでなのだけど、その初音様から内藤様の元に、
呉服の間に奉公するお針子を一人、探して欲しい
との依頼があつたらしい。

そこで白羽の矢が立ったのが、私と言うわけだ。

呉服の間詰め女中。

大奥の女中は、例え身分が お目見え以下の 軽輩者でも、上様の
お目に留まり、一度でも夜のお相手を務めることが叶ったら、たち
まち お目見え以上の
お中? 《ちゆうろう》様
だ。

ましてや、上様のお子を懐妊し、無事、出産の運びとなれば、生ま
れた子供が男の子ならば

お部屋様

女の子であっても

お腹様

と、呼ばれて。

大奥の中に豪華な個室を与えられ、正式な
側室様

と、なる。

（ 夜のお相手をつとめただけでは、正式な側室ではないんだって
）

でも、大奥の女中とは言え、呉服の間詰め的女中・・・つまりお針
子は、巷で言う職人みたいなもので。

上様が食指を伸ばすことなど、まずありえない
と言っ事だったから・・・

おとつあんも、おつかさんも、

「 これ以上の奉公先は先ずない
と、大乗り気で。」

私自身も、縫い物は得意なほうだし、刺繍も好きだったから、とん
とん拍子に話は進み、

去年の秋の終わりが、千代田のお城に上がって、大奥の呉服の間
に奉公することとなった。

勿論、大奥に奉公するのは、
武家の娘
に、限られているんだけど、そこはそれ。

『養子縁組』

と、言う、抜け道があるんですよ。
これが。

身分の低い、農民や町人でも、武家の養子・養女 になれば、身分
は武家の子、武家の娘になるんですよ。

その制度のおかげで、花嫁修業の意味もあつて大奥や大名・旗本な
どの武家屋敷に奉公している裕福な町人の娘たちは、ほとんど全員
が武家の養女という建前でお屋敷に入っている。

5

かく言う私も、私に大奥への奉公を勧めて下さった内藤様が、私を
ご自身の養女にして下さったので、私は建前上
内藤様の娘
と、言う事になっていて、大奥奉公をすることが出来たのだ。

ずっとあこがれていた
大奥。

金欄のうちかけ
伽羅の香
美味しい食べ物

どんなところだろうと思っていたけれど・・・

どうしてどうして。

現実には、憧れなんかつむじ風で吹き飛んでしまふみたいな、
とても一筋縄じゃいかない、

女の苑

なんですよね。

これが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4168z/>

千代田のお城は花盛り

2011年12月14日12時52分発行